

堀尾泉實先生一周忌記念講演会

「コロナ大いなる宇宙の意図」出版記念講演

7月23日、名古屋吹上ホールで盛況下に開催される

全国から熱心な聴衆が続々と

去る7月23日(木)の午後0時30分から4時にわたり、名古屋市千種区の名古屋中小企業振興会館の吹上ホール第三会議室において、「【コロナ】大いなる宇宙の意図」と題しての講演会が、光透波・命波学研究会によって盛況裡に開催されました。

この講演会は新時代の指導理法ともいえる絶対性原理・光透波を啓かれた小田野早秋先生の内弟子として薫陶を受けられ、命波学教本を纏め上げられた堀尾泉實先生の一周忌記念講演会として、同氏から命波学を学んだ門下生一同によって催されることになったのです。

開会時間が押し迫るにしたがって、地元名古屋市はもちろんのこと、遠くは北海道釧路市を始め東京、神奈川、富山・兵庫・奈良・京都・愛知・岐阜・三重等の各県から続々と来場者が詰めかけ、コロナの自粛沈滞の空気を打ち砕くように、会場は活況を呈してゆきました。



コロナの影響を越えて大盛況であった講演会場の模様

「【コロナ】大いなる宇宙の意図」著者・宿谷直晃先生の記念講演

午後0時30分、岡田友佳子氏のさわやかな司会で開演。初めに堀尾泉實先生の実妹である堀尾君子氏が中央壇上に立って開会の挨拶が述べられ、第一部へと入ってゆく。

「【コロナ】大いなる宇宙の意図」の著者・宿谷直晃先生のプロフィールが司会者から紹介された後、中央壇上に進まれて挨拶された宿谷氏は、パワーポイントを使ってビジュアルな講演へと移る。

ホワイトボードに次々と画面を写し出ししながら、21世紀・令和の時代を迎えて、人類は物・金・エゴの体主霊従から、霊性と和す霊主体従の時代へと移り変わってゆく。コロナはその先駆けの浄化現象であることが解説される。



挨拶をする宿谷直晃氏

そして、この転換の時代の道標・指導哲理として光透波・命波学が、言霊の国・日本に出現していることが強調される。約1時間15分にわたる熱のこもった講演後に質疑応答時間が持たれ、満席の聴衆の拍手に浴して記念講演は納められる。

門下生によるパネルディスカッション

休憩の後、第二部・「光透波とわたし」と題したパネルディスカッションへと進行する。

会場の正面の左手に、堀尾先生から命波学を学んだ4人の門下生が席に着き、岡田友佳子氏の司会によって体験談が交わされてゆく。さわやかに和やかに語られた4人のパネラーの要旨は、以下の内容でありました。

光の言葉使って、明るい喜びが……山本敏朗氏

・子供のころから星や宇宙に高い関心があった。堀尾君子先生に勧められ宇



4人の門下生・パネラー

「コロナ」大いなる宇宙の意図 宿谷直晃著 ヒカルランドから全国有名書店で好評発売中
お近くの書店に無い時は書名・著書名でお取り寄せください。ネットでの購入も出来ます。

宙の法則を掴むことが出来る光透波を学ぶようになる。明るい光の言葉を使うよう心掛け、健康作りと介護の仕事面や家庭内でも活用している。すると明るい喜びが開かれてゆくようになることを話される。

光透波を学び健康で充実した日々が……銚館俊之氏

- ・大手電機メーカーのエンジニアとして活躍してきたが、そのハードさとプレッシャーが重なって潰瘍性大腸炎という難病で苦悩する。それで日月神示や神託記等の精神世界の本を学び、考え方を変えゆくと不思議とその難病が癒え、神の实在に気づく。その後、導かれるように光透波を学ぶようになり、百八十度生き方を変えて、靈性に和した道を歩み健康で充実した日々を送っていることを、プロジェクターを使って分かり易く話をすすめられる。

「あいうえお」は、「I Love you」 母音中心の日本語は愛に満ちた言葉……大淵雅子さん

- ・堀尾泉實先生から教わった『あいうえお』は「I LOVE YOU」に繋がることをパワーポイントを使ってビジュアルに分かり易く字割解説をされる。そして世界の言葉の中で唯一の母音中心言語である日本語が、調和と愛に満ちた素晴らしい波動を秘めた言語であるかを強調される。

光透波を学び言葉の重要性を認識し、実践……森裕子さん

- ・二人の息子さんを持つ普通のお母さんと自称され、若いころから言葉や言霊に関心があり光透波を学ぶようになる。言葉によって認識も意識も、そして生活の全般が成り立つことを深く知る。認知症の老人が「トイレ」の言葉を忘れると、失禁していてもグルグル回ってトイレに行くことが出来ない事例を挙げ、如何に言葉というものが重要であるかを話される。そして文字の言霊学・光透波は人生の味方になるので、学ぶことをお勧めしますと結ばれる。
- ・パネルディスカッションの締め言葉として、司会者よりパネラーの皆さんのお話のように命波学＝光透波理論を学ぶと、明るい宇宙に通じる言葉が活用できるようになりますと、光透波を学ぶ意義が語られ第二部は納められる。

追悼講演「ことばで生きている」堀尾君子先生

小憩の後、第三部・追悼講演「ことばで生きる」へと移ってゆく。

司会が講演者・堀尾君子先生のプロフィールを「21歳の時に実兄の泉實氏と共に小田野早秧先生にご縁をむすばれる。

14年間にわたり光透波を学び続けられる。

平成26年、堀尾泉實先生が命波学講座を開催されると、そのサポートに尽力。令和元年8月に泉實先生が逝去された後はその遺志を継いで命波学を教えられ、現在、實光透波研究会を主宰されています・・・」と紹介される。

小田野早秧先生・堀尾泉實先生を偲び熱く語られる



講演される堀尾君子氏

午後3時過ぎ、中央壇上に君子氏が登壇。人は「ことばで生きている」のテーマに沿って話を始める。

光透波の祖・小田野先生が幼き頃「なんで箸と橋が同じハシと言うのか?」。生来、類い稀れな探求心を持っていた小田野先生が光透波を啓かれる契機となったのは、アインシュタインの「相対性原理があるならば絶対性原理があるはずだ」の発想による。その結果、命の真髄を解明することへ導かれ、探求されてゆくことになった。

不思議な靈的な導きを得るとともに、断食スレスレの探求生活を重ねる中で、遂に昭和32年10月に光透波・命波学を啓くことに至ったことが、小田野先生の体験談やエピソードを数々挙げて、淡々と時にはジェスチャーを入れて熱弁され、来場者の心を捉えてゆく。

そして昭和49年3月に実兄の泉實先生と小田野先生の宿命的な出会い、命波学理論の確立の話、天鏡図の話などを次々と語られ、満場の拍手のうちに追悼講演は納められる。

かくして、司会の閉会の辞により、午後4時過ぎ、名古屋吹上ホールでの光透波・命波学講演会は、大盛況大成功のうちに幕を閉じたのである。

「光の言葉で原点回帰 全ての人を救われる道」 宿谷直晃著 でくのぼう出版から発行
電話0467-25-7707、お取り寄せください。ネットでの購読も出来ます。